

KFシールテクト HB工法 施工要領書

2019年7月作成
2023年2月改正

KFケミカル株式会社

目

次

1	KFシールテクト HB工法 仕様	3項
2	KFシールテクト HB工法 仕様断面図	3項
3	施工フロー図	4項
4	施工条件	4項
5	要求下地	4項
6	施工手順	
6-1	下地処理、清掃、養生	5項
6-2	KFシールテクトアンダーコートT塗布	6項
6-3	KFシールテクトアンダーコートTパテ塗布	7項
6-4	KFシールテクトHBトップ塗布	8項

1 KFシールテクトHB工法 B種 仕様

■ KFシールテクトHB工法

工程	種別	使用材料	標準塗布量/m ²	
1	3成分型水性エポキシ塗料	KFシールテクトアンダーコートT	0.35kg	
2	3成分型水性エポキシ塗料	KFシールテクトアンダーコートTパテ	0.30 kg(注1)	
3	1液湿気硬化型溶液塗料	KFシールテクトHBトップ	0.30kg	0.20kg
4			0.30kg	0.20kg
5			—	0.20kg

備考：・(注1)下地の凹凸、巣穴状況によって使用する。下地が平滑な場合は不要。

下地の状態によって使用量が左右されるが、0.30 kg/m²はコンクリート塗装された面の全面を鏝等でしごき塗りした場合の目安量として表記。

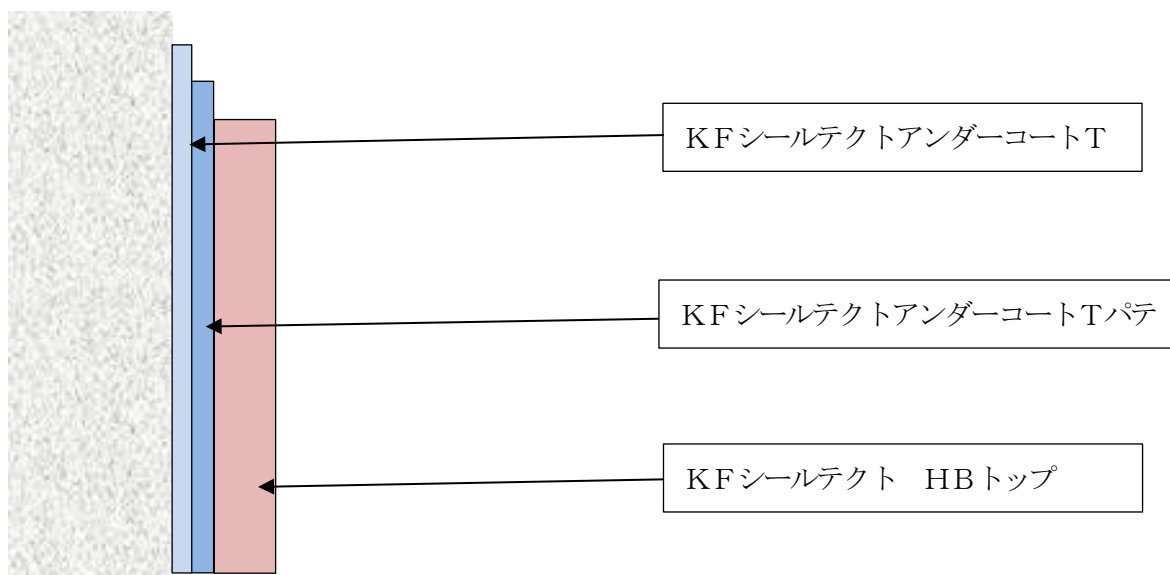
また、コンクリート未塗装面では、経年劣化で表面の凹凸が酷い場合などは0.7 kg使う場合もある。

・KFシールテクト HBトップは塗り重ね回数を2~3回とし、総塗布量を0.60 kg/m²とする。

施工環境により0.30 kg/m²で材料ダレが発生する場合には0.20 kg/m²×3回塗りとする。

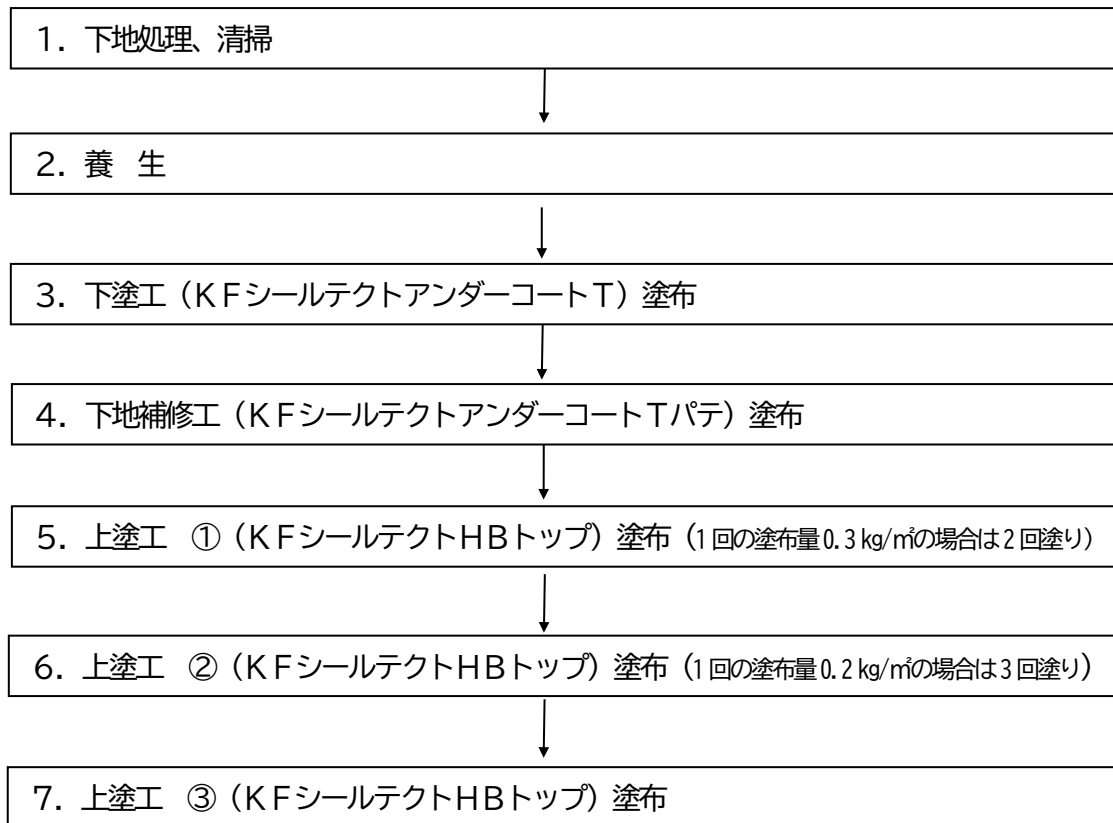
また、横梁下面、床版下面、天井等の部位は0.20 kg/m²×3回塗り仕上げが望ましい。(塗着量の関係)

2 KFシールテクトHB工法 B種 仕様断面図



施工断面図

3 施工フロー図



4 施工条件

(1) 施工条件

以下の条件をすべて満たした状態で施工を行う。

- ・降雨、降雪、強風がないこと。
- ・気温5℃以上、湿度85%以下であること。
- ・下地含水率10%以下であること。
- ・施工面が十分乾燥し、結露・凍結がないこと。
- ・施工面は十分に清掃され付着阻害要因となる異物等がないこと。

5 要求下地

- (1) 施工面の補修歴を確認し、施工に支障のない下地表面であること。
- (2) コンクリートの表面が雨水等で濡れていないことを確認する。
- (3) 施工に支障のない程度に止水処理がされていること。

6 施工手順 6-1

作業名	下地処理・清掃・養生	作業番号	1、2
-----	------------	------	-----

使用材料と使用量	なし	使用工具	①サンダー ②清掃用具 ③墨出し ④養生テープ ⑤皮スキ
----------	----	------	------------------------------------

作業内容	注意事項
<p>【下地処理】</p> <p>①下地と防水材の接着を阻害するようなレイタンス、油脂、錆、よごれ等は除去すること。また、著しい突起物、豆板などの欠陥部は補修すること。</p> <p>②コンクリートの表面含水率は、高周波式コンクリート・モルタル水分計を用いて計測し、10%以下であることを確認すること。</p> <p>③ひび割れ部からの水分は十分に止水を行うこと。</p> <p>【清掃】</p> <p>①下地表面にあるゴミやホコリ等を箒等で除去する。</p> <p>②地面に落ちたゴミやホコリ等は塵取り、乾湿両用掃除機等で清掃する。</p> <p>【養生】</p> <p>①施工範囲確定後、墨出しを行う。</p> <p>②墨に合わせマスカーや養生テープを貼りつける。</p> <p>③遮音壁、支柱、ケーブル等について同様に養生を行う。</p>	<p>・下地処理を怠ると施工不良の原因になるため、適切な下地処理がなされていることを確実に確認すること。</p> <p>・使用材料が付着すると容易に剥がすことが出来ないため、付着してはいけない機材等も養生を行う。</p>

6 施工手順 6-2

作業名	KFシールテクトアンダーコートT塗布	作業番号	3
-----	--------------------	------	---

使用材料と使用量	KFシールテクトアンダーコートT (0.35 kg/m ²)	使用工具	③ 攪拌機 ②刷毛 ③中毛ローラー
----------	---	------	----------------------

作業内容	注意事項																												
<p>①ポリパール缶内の材料を取り出す。</p> <p>②ポリパール缶内に硬化剤2kgを開封後容器に入れて、次に粉体5.4kgを開封し容器に入れ1分間攪拌する。最後に主剤2kgを開封後容器に入れて更に1分間攪拌する。</p> <p>③刷毛、中毛ローラー等を用いて、0.35 kg/m²均一に塗布する。</p> <p>《希釈剤の使用について》 ・水希釈する場合は清水を用い、5%を上限とする。</p> <p>《塗装間隔及び使用可能時間の目安について》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">温度</th> <th>5~10℃ 冬期</th> <th>10~25℃ 春秋期</th> <th>25~35℃ 夏期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">項目</td> <td>標準</td> <td>30分~</td> <td>30分~</td> <td>30分~</td> </tr> <tr> <td>最短</td> <td>~7日間</td> <td>~7日間</td> <td>~7日間</td> </tr> <tr> <td colspan="2">使用可能時間^{※2}</td> <td>6時間</td> <td>4時間</td> <td>2時間</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 標準塗装間隔 ：下地への塗布後、上塗工の施工が可能な時間。</p> <p>※2 使用可能時間 ：主剤、硬化剤、粉体混合攪拌後の下地へ塗布する事の出来る時間。</p> <p>《膜厚管理》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>塗布量 (kg/m²)</th> <th>ウェット膜厚 (μm)</th> <th>乾燥膜厚 (μm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.20</td> <td>130</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>0.35</td> <td>225</td> <td>160</td> </tr> </tbody> </table>	温度		5~10℃ 冬期	10~25℃ 春秋期	25~35℃ 夏期	項目	標準	30分~	30分~	30分~	最短	~7日間	~7日間	~7日間	使用可能時間 ^{※2}		6時間	4時間	2時間	塗布量 (kg/m ²)	ウェット膜厚 (μm)	乾燥膜厚 (μm)	0.20	130	90	0.35	225	160	<ul style="list-style-type: none"> ・容量 : 9.4 kg/set ・容器 : ポリパール缶 (内訳) 主剤 : 2 kg 硬化剤 : 2 kg 粉体 : 5.4 kg ・施工条件に注意する。 ・材料の攪拌は、高速回転(1000 rpm以上)でスクリュー径150mm以上の電動攪拌機を使用する。 (プロペラタイプは不可) ・容器入隅部は混ざり難いので入念に攪拌する。 ・塗りムラ、溜まりを抑えるため、タテ、ヨコ方向に交差するよう塗布する。 ・使用する塗布用具は施工部位、下地の状況に応じて適宜使い分ける。 ・塗布後、指触乾燥状態になったら、上塗の施工が可能。 ・使用可能時間が過ぎた材料の使用は厳禁。 ・WET膜厚測定は塗装後、直ぐにウェット膜厚計で測定する。 ・下地の吸い込みによりWET膜厚は測定困難な場合があり、その場合は塗布量管理とする。
温度		5~10℃ 冬期	10~25℃ 春秋期	25~35℃ 夏期																									
項目	標準	30分~	30分~	30分~																									
	最短	~7日間	~7日間	~7日間																									
使用可能時間 ^{※2}		6時間	4時間	2時間																									
塗布量 (kg/m ²)	ウェット膜厚 (μm)	乾燥膜厚 (μm)																											
0.20	130	90																											
0.35	225	160																											

6 施工手順 6-3

作業名	KFシールテクトアンダーコートTパテ塗布	作業番号	4
-----	----------------------	------	---

使用材料と使用量	KFシールテクトアンダーコートTパテ (0.30kg/m ²)	使用工具	①攪拌機 ②刷毛 ③中毛ローラー ④金コテ ⑤ゴムコテ ⑥ゴムベラ
----------	--	------	---

作業内容		注意事項																																							
<p>①ポリパール缶内の材料を取り出す。</p> <p>②ポリパール缶内に主剤2kg, 硬化剤2kgを開封して容器に入れ、電動攪拌機で攪拌しながら粉体9kgを全量仕込む。材料が均質なるまで約1分間攪拌する。</p> <p>③刷毛、中毛ローラー等を用いて、下地の巣穴をなくす様に塗付け、仕上げにゴムコテ、金鏝等で平滑に仕上げる。</p> <p>《希釈剤の使用について》 ・原則、使用不可とする。</p> <p>《塗装間隔及び使用可能時間の目安について》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">温度</th> <th>5~10℃</th> <th>10~25℃</th> <th>25~35℃</th> </tr> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>冬期</th> <th>春秋期</th> <th>夏期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">標準 塗装間隔^{※1}</td> <td>最短</td> <td>30分~</td> <td>30分~</td> <td>30分~</td> </tr> <tr> <td>最長</td> <td>~7日間</td> <td>~7日間</td> <td>~7日間</td> </tr> <tr> <td colspan="2">使用可能時間^{※2}</td> <td>2時間</td> <td>1時間</td> <td>0.5時間</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 標準塗装間隔 ：下地への塗布後、上塗工の施工が可能な時間。</p> <p>※2 使用可能時間 ：主剤、硬化剤、粉体混合攪拌後の下地へ塗布する事の出来る時間。</p> <p>《膜厚管理》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>塗布量 (kg/m²)</th> <th>ウェット膜厚 (μm)</th> <th>乾燥膜厚 (μm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.30</td> <td>160</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>0.35</td> <td>190</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td>0.40</td> <td>220</td> <td>170</td> </tr> <tr> <td>0.65</td> <td>350</td> <td>280</td> </tr> </tbody> </table>		温度		5~10℃	10~25℃	25~35℃	項目		冬期	春秋期	夏期	標準 塗装間隔 ^{※1}	最短	30分~	30分~	30分~	最長	~7日間	~7日間	~7日間	使用可能時間 ^{※2}		2時間	1時間	0.5時間	塗布量 (kg/m ²)	ウェット膜厚 (μm)	乾燥膜厚 (μm)	0.30	160	130	0.35	190	150	0.40	220	170	0.65	350	280	<ul style="list-style-type: none"> ・容量 : 13kg/set ・容器 : ポリパール缶 (内訳) 主剤 : 2kg 硬化剤 : 2kg 粉体 : 9kg ・施工条件に注意する。 ・材料の攪拌は、高速回転(1000rpm以上)でスクリュー径150mm以上の電動攪拌機を使用する。 (プロペラタイプは不可) ・使用量は下地状態により異なる為、必ずしも0.30kg/m²使用する必要はない。 逆に0.30kg/m²以上使用する場合もある。 ・容器入隅部は混ざり難いので入念に攪拌する。 ・塗りムラ、溜まりを抑えるため、タテ、ヨコ方向に交差するよう塗布する。 ・使用する塗布用具は施工部位、下地の状況に応じて適宜使い分ける。 ・塗布後、指触乾燥状態になったら、上塗の施工が可能。 ・使用可能時間が過ぎた材料の使用は厳禁。 ・WE T膜厚測定は塗装後、直ぐにウェット膜厚計で測定する。 ・下地の吸い込みによりWE T膜厚は測定困難な場合があり、その場合は塗布量管理とする。
温度		5~10℃	10~25℃	25~35℃																																					
項目		冬期	春秋期	夏期																																					
標準 塗装間隔 ^{※1}	最短	30分~	30分~	30分~																																					
	最長	~7日間	~7日間	~7日間																																					
使用可能時間 ^{※2}		2時間	1時間	0.5時間																																					
塗布量 (kg/m ²)	ウェット膜厚 (μm)	乾燥膜厚 (μm)																																							
0.30	160	130																																							
0.35	190	150																																							
0.40	220	170																																							
0.65	350	280																																							

6 施工手順 6-4

作業名	KFシールテクトHBトップ塗布 (2~3回塗り)	作業番号	5、6、7
-----	-----------------------------	------	-------

使用材料と塗布量	KFシールテクトHBトップ (0.3kg/m ² ×2回)	OR	使用工具	①攪拌機 ②刷毛 ③ローラー
	KFシールテクトHBトップ (0.2kg/m ² ×3回)			

作業内容	注意事項																															
<p>①KFシールテクトHBトップは1液タイプで、硬化剤等の混合は不要。ただし容器底に塗料成分が沈降している場合があるため、使用前には攪拌機等で30秒程度攪拌後使用する。</p> <p>②アンダーコートTパテが指触乾燥していることを確認する。</p> <p>③刷毛、またはローラーで、0.3kg/m²を均一に塗布する。ただし、横梁下面、床版下面、天井等の塗料が塗付けにくい部位は、0.2kg/m²の3層塗りで仕上げる。</p> <p>④1層目のHBトップを塗布後、下表《塗装間隔の目安》を参考に2層目のHBトップを均一に塗布する。 ※1層目の塗膜がウェット状態であっても、塗り重ねても問題ない</p> <p>《希釈剤の使用について》 ・使用不可とする。</p> <p>《垂れ止め剤の使用について》 ・使用不可とする。</p> <p>《硬化促進剤の使用について》 ・原則、使用不可とする。 ・やむを得ず使用する場合は、専用硬化促進剤を使用する。</p> <p>《塗装間隔の目安 について》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">温度</th> <th>5~10℃</th> <th>10~25℃</th> <th>25~35℃</th> </tr> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>冬期</th> <th>春秋期</th> <th>夏期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">標準 塗装間隔※1</td> <td>最短</td> <td>1時間~</td> <td>30分~</td> <td>30分~</td> </tr> <tr> <td>最長</td> <td>~7日間</td> <td>~7日間</td> <td>~7日間</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 標準塗装間隔 ：同一材料による積層可能時間（2層目の塗装間隔）</p> <p>《使用可能時間について》 ・KFシールテクトHBトップは空気中の水分と反応するため、開封後数時間放置する場合には、マスカー、ビニール袋等で塗料を空気から遮断する。</p> <p>《膜厚管理》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>塗布量 (kg/m²)</th> <th>ウェット膜厚 (μm)</th> <th>乾燥膜厚 (μm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.20</td> <td>200</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>0.30</td> <td>300</td> <td>190</td> </tr> <tr> <td>0.60</td> <td>600</td> <td>380</td> </tr> </tbody> </table>	温度		5~10℃	10~25℃	25~35℃	項目		冬期	春秋期	夏期	標準 塗装間隔※1	最短	1時間~	30分~	30分~	最長	~7日間	~7日間	~7日間	塗布量 (kg/m ²)	ウェット膜厚 (μm)	乾燥膜厚 (μm)	0.20	200	130	0.30	300	190	0.60	600	380	<ul style="list-style-type: none"> ・容量：15kg ・容器：18ℓ石油缶 ・施工条件に注意する。 ・塗装用具はローラーが望ましい。 ・KFシールテクトHBトップはウェットオンウェット施工が可能な材料である。 ・塗装上のポイントとして、1層目が乾いていない状態で2層目を塗装する場合は、1層目の塗膜を起こさないように、2層目は塗料を置いていく感覚で塗装する。 ・硬化の始まった材料の使用は厳禁。 ・WET膜厚測定は塗装後、直ぐにウェット膜厚計で測定する。
温度		5~10℃	10~25℃	25~35℃																												
項目		冬期	春秋期	夏期																												
標準 塗装間隔※1	最短	1時間~	30分~	30分~																												
	最長	~7日間	~7日間	~7日間																												
塗布量 (kg/m ²)	ウェット膜厚 (μm)	乾燥膜厚 (μm)																														
0.20	200	130																														
0.30	300	190																														
0.60	600	380																														